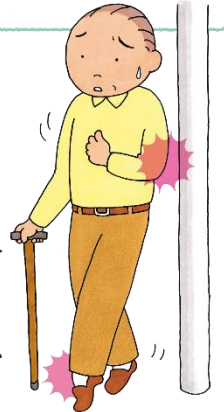


Q 脳卒中後の後遺症、痙縮ってなに？

脳卒中によくみられる運動（機能）障害の1つに痙縮（手足のつっぱり）という症状があります。痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の運動が制限され、日常生活に支障が生じてしまいます。痙縮があるとリハビリテーションの障害になることもあるので、痙縮に対する治療が必要です。また、痙縮に対する治療の1つとして、ボツリヌス療法があります。当院でも行っておりますので、まずはお気軽にご相談ください。

痙縮（けいしゆく）



- 筋肉が緊張しすぎてしまう状態で、手足がこわばったり、つっぱったりします。
- 片まひと同じ側の手足にあらわれることがほとんどです。

こんなことでお困りではないですか？



Q ボツリヌス療法ってなに？

ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出す天然のたんぱく質（ボツリヌストキシン）を有効成分とする薬を筋肉内に注射する治療法です。ボツリヌストキシンには、筋肉を緊張させている神経の働きを抑える効果があります。そのため、ボツリヌストキシンを注射すると、筋肉の緊張をやわらげることができるのです。

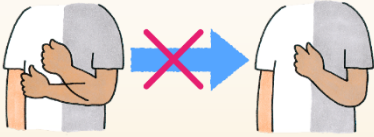
ボツリヌス療法



- つっぱったり、こわばっている筋肉に、直接お薬を注射します。
- 注射した筋肉のつっぱりやこわばりをやわらげます。

Q ボツリヌス治療によって期待できる効果は？

関節が固まって動きにくくなったり、
変形するのを防ぎます



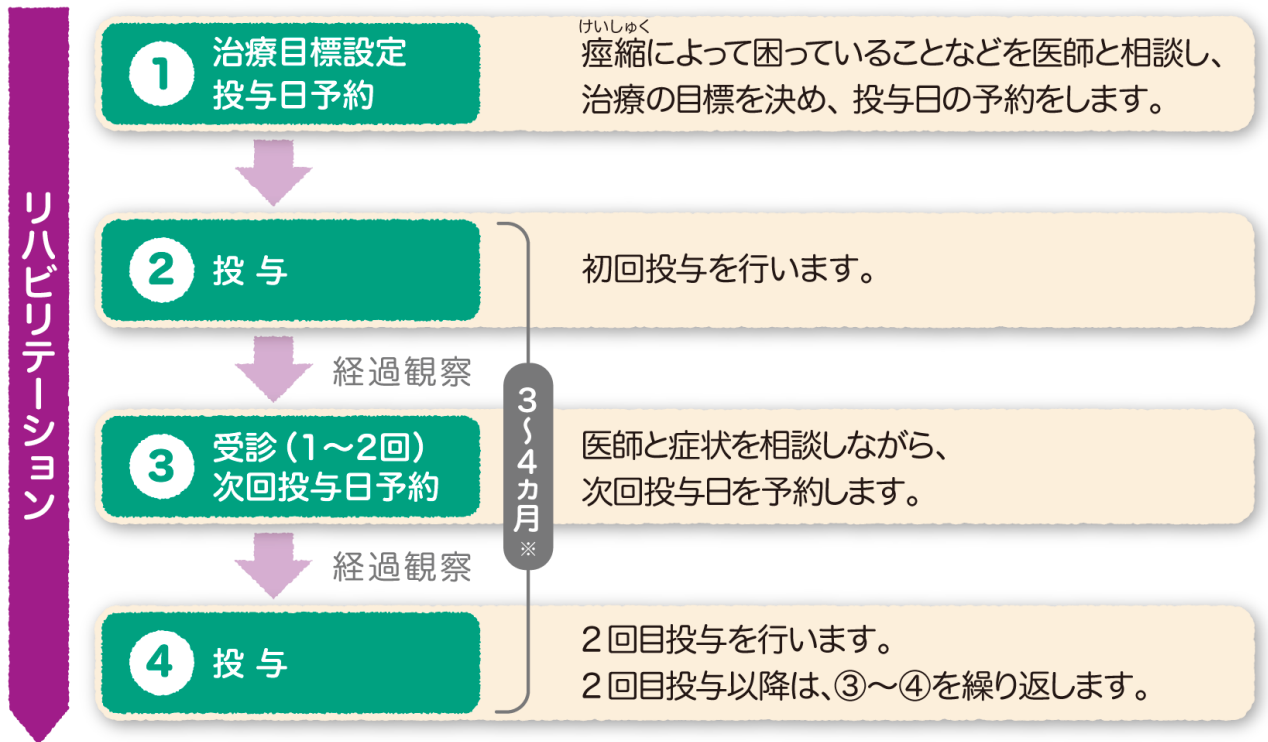
リハビリテーションが
しやすくなります



介護の負担が
軽くなります



● 治療スケジュール例



※次の投与までの期間には個人差があります。

まずは地域医療連携室にて予約をお取りの上、ご相談ください。

TEL : 029-233-9937 (直通)

対応時間 月-金 : 8:30~17:00 / 土 : 8:30~12:30

水戸協同病院 脳神経外科 柴田 靖
益子 良太